

女神達の憂鬱
女教師里咲篇

第三卷 下着姿で授業

海老沢 薫

内容

■ 著作権について

■ まえがき

■ 第一章 お局教師からの呼び出し

■ 海老沢薫 B L O G

■ 海老沢薫 W e b 連載小説

※ 海老沢薫 B L O G

<http://kaoruebisawa.blog.fc2.com/>

・ ・ ・ 「羞恥」 「露出」 「辱め」 をテーマとした小説シリーズや、各種コンテンツ情報などを配信。

■ 著作権について

「女神達の憂鬱 女教師里咲篇 第三卷 下
着姿で授業」(以下本書と表記する)の著作
権は「海老沢薫」にあります。

・本書のすべての内容は、日本の著作権法、
及び国際条約によって保護されています。

・「海老沢薫」が事前に書面をもって許可し
た場合を除き、本書の一部、または全部を、
あらゆるデータ蓄積手段(印刷物、電子ファ
イル、ビデオ、テープレコーダー)により複
製、流用、転載、転売することを固く禁じま
す。

・著作権の侵害につきましては、著作権法第
61条などの罰則がありますのでご注意くださ
い。

■ まえがき

美人女教師の吉川里咲は、自らの恥ずかし
い動画を握る「学園の番人」の指示に従い、
超ミニスカート姿での授業を強いられた。
自分が担任するクラスの生徒達の前でTバ
ックに包まれたお尻を晒し、あろうとか秘
部から溢れ出た蜜まで見られてしまった里咲
そして、授業が終わりに近づいた頃、クラ
ス委員の女子生徒、結城から超ミニスカート
に履き替えた理由や、教師がTバックを穿い
ても良いのかと問い詰められ、困惑した里咲
は逃げるように教室を後にする。
どうにか職員室へと戻った里咲だったが、
今度はそこで同僚教師達の好奇に満ちた視線
を浴びることとなり・・・。
職員室の片隅の席で里咲が羞恥に震えてい
ると、五十代のお局教師、山川が自分の席へ
と里咲を呼びつけた。山川は他愛もない世間
話を延々と続け、超ミニスカート姿の美人女
教師を同僚教師達の前で晒し者にする。

普段から自分よりも圧倒的に若く美しい里
咲に対して強い憎しみと嫉みを抱いていた山
川は、その鬱憤を晴らすかのようにな、職員室
のど真ん中で里咲を羞恥責めにした。
山川は机の上に積んであった書類をわざと
床に落とし、散乱した書類を里咲に拾わせ、
同僚教師達の前でお尻を丸出しにさせると、
今度はあろうことか職員室のど真ん中で屈辱
の露出狂宣言までさせたのだ。
「私は人に、は、裸を見られるのが大好きな
ろ、露出狂の教師です・・・それで、いつも
お尻丸出しの、パ、パンティを穿いて学校に
来ています。それから今日は露出癖が我慢で
きなくなつて、さつき股間ギリギリのミニス
カートに履き替えました・・・」
里咲は職員室のど真ん中でお局教師から教え
られたセリフを何度も言わされ、同僚教師達
の見つめる前で激しい羞恥に全身を震わせな
がら極限の公開処刑を受けるのだった。

■ 第一章 お局教師からの呼び出し

授業中の教室のど真ん中では、美人女教師が羞恥に顔を真っ赤に染め、濡れた太股を必死にハンカチで拭いていた。その脚はガクガク震え、周りを取り囲む生徒達にも、女教師が羞恥に激しく喘いでいる様子がハッキリと分かった。

ようやく太股を伝う蜜をハンカチで拭いたつた里咲は、一刻も早くこの羞恥地獄から抜け出すために、床に落ちた消しゴムを今度は半ば強引に拾い上げ、それをクラス委員の結城の机の上に置いた。

言う事なく、羞恥に震える女教師を意味深な表情でただじっと見つめるだけだった。

再び教壇に戻った里咲は必死に平生を装うとしていたが、その脚の震えは全く治まる気配がなかった。生徒達にTバックに包まれたお尻を見られただけでなく、秘部から溢れ出

た蜜まで見られてしまい、恥ずかしくて溜ら
ず本当は今すぐ教室から逃げ出したいくらい
だったのだ。
それでも、里咲は教師としての責任感から
か気丈に振る舞い授業を続けた。生徒達の中
にはその姿にさらに欲情する者、もっと辱め
てやりたいと企む者、冷めた眼で見つめる者
と様々な反応を示していた。
そうして、授業がついに終わりに近づき里
咲が話を終えた時だった。クラス委員の結城
が手を挙げ教壇に立つ女教師に向かって大き
な声で呼び掛けた、
「先生、質問があるんですけど」
里咲は結城の呼び掛けに嫌な予感を覚え、表
情を強張らせた。
「な、なんですか・・・？」
里咲の声は震え、動揺している様子が生徒達
にも良く分かった。
「確か、お昼休みまでは先生違うスカートを
穿いていたと思うんですけど、どうして急に

そんな超ミニのスカートに履き替えたんですか？あと、教師がお尻丸出しの下着を穿いてもいいんですか？」

クラス委員の結城の質問はあまりに露骨でストリートなものであった。

クラス委員の質問はクラス全員がずっと心の中に抱いていた疑問であり、皆、女教師の答えを聞きたがった。だから、結城の質問が投げ掛けられた途端、教室は急に静寂に包まれ、全員の視線が教壇に立つ女教師の紅く染まった美貌に集中した。

「そ、それは・・・」

里咲はようやく羞恥地獄から抜け出せると思っていた矢先の予想外の質問に思わず言葉を詰まらせた。

「先生、早く答えてください！」

クラス委員の結城は教壇で困惑する女教師に向かつて強く迫った。

「先生、どうしてそんな超ミニに履き替えたんですか？」

「もしかして先生は露出狂なんですか？」
「だからあんなお尻丸出しの下着穿いてるんですか？」
「それです。」
「それで授業中にお漏らししちゃったんだへ
笑。」
他の生徒達もクラス委員に追随するように次々と質問を投げ掛けた。
ああん、どうしよう・・・なんて答えればいいの。里咲の表情は瞬く間に青ざめていき超ミニスカートの奥では再び秘部が濡れ始めていた。
するとちょうどその時、授業の終わりを告げるチャイムが校内に鳴り響いた。里咲はこれだけで生徒達の質問責めから逃れられると思っ
たのか、その青ざめていた表情が少し緩んだ。「先生、それじゃあ次の授業の時にしっか
りと今の私の質問に答えてください。もし、答えてくれない場合には、先生がお尻丸出しの下着を穿いている事も、授業中にお漏らしした事も全部学校中に言いふらしますから！」

クラス委員の結城がそう言つてのけると、他の生徒達から拍手が湧き起こつた。
「そんな・・・」
結城の脅迫めいた言葉を聞いた里咲は体の震えが止まらなかつた。
もしかして、私にあの動画を送つてきた「学園の番人」は彼女なの・・・？里咲の脳裏に不意にそんな予感が過ぎつた。
それから里咲は逃げるように教室を飛び出すと、超ミニスカート姿で廊下を歩き職員室へと急いで戻つた。
職員室に戻つた里咲は今度は同僚教師達のギリギリした視線を浴びることになつた。男性教師達は、学園のアイドル的存在である美人女教師がなぜ急に超ミニスカートに履き替えたのかと意味深な笑みを浮かべながら噂し合つていた。

やはり、多くの教師達が里咲のことを露出
狂だと思い込んでいる様子で、露骨な視線を
その下半身に投げ掛けていた。
ああん、みんな見ないで・・。自分のx
席に座った里咲は、他の同僚教師達の視線を
痛いほど感じ、心の中で喘いだ、下半身はま
だ火照ったままで、このままでは職員室の中
でもお漏らししてしまいそうだった。
「吉川先生、明日の全校朝礼の件で話がある
からちょっとこっちに來てくれないかしら」
職員室の片隅で震える里咲にそう声を掛けて
きたのは年増の女教師、山川由香であつた。
五十代の山川は職員室のお局的存在で、男
性教師達はいつも口うるさい彼女のことを疎
ましく思い、皆あまり関わろうとはしなかつ
た。つまり、里咲と山川は同じ女教師であつ
ても対照的な存在で、その事を十分に理解し
ている山川は、自分よりも圧倒的に若く美し
い里咲の事を日頃から良く思っていないなかつた
のだつた。

山川に呼ばれた里咲は仕方なく席を立ち上
がると、職員室の中央にある山川の席へと向
かった。途中、男性教師達の露骨な視線が剥
き出しの美脚に突き刺さるのを感じた里咲は
あろうことか再び秘部を濡らし始めていた。
「はい、何でしょうか・・・？」
お局教師の元にやって来た里咲は恐る恐る尋
ねた。
山川は里咲の方を向くと、若い女教師の生
脚をまるで値踏みでもするかのように意味深
な表情で見つめた。至近距離で見ると、里咲の美
脚は同性の目から見ても扇情的に映り、山川
も他の男性教師達と同じように欲情をそそら
れていた。
「明日の全校朝礼の講話をあなたにお願いし
たいんだけど、やってくれるわね？」
山川は里咲の美脚を見つめながらそう告げた
「はい・・・」

里咲は目の前に座るお局教師の視線が剥き出しの脚に突き刺さるのが恥ずかしくて溜らず、少し声を上ずらせた。　　すると、山川はもう用は済んだはずにも関わらず、それから他愛もない世間話を里咲に向かつて一方的に始めたのだった。　　里咲は正直お局教師の話などまるで興味がなく、それを一方的に聞かされるのは苦痛でしかないかった。しかし、男性教師達さえも恐れれるお局教師のご機嫌を損ねるわけにはいかず、里咲は愛想笑いを浮かべながら、時に槌を打ち、山川の世間話を聞き入った。　　そんな職員室のど真ん中に立つ美人女教師の姿を、周りにいる男性教師達はガラガラした目で眺めていた。皆、その細長く伸びた美しい脚や超ミニスカートに包まれた形良いお尻を拝みながら、それぞれの頭の途中で邪な妄想を膨らませているに違いなかった。同僚の男性教師達の誰もが一度は里咲の裸を頭の中で思

い描き、その喘ぐ姿やイク瞬間を想像した経験があった。だから、彼らにとって超ミニスカート姿で職員室のど真ん中に立つ里咲の姿は、今まで頭の中で思い描いてきた妄想がほんの少しだけ叶ったような光景だった。

山川は他の男性教師達が里咲の超ミニスカート姿に釘付けになっていることに気づきながら、わざと長話を続けて、里咲を職員室のど真ん中で晒し者にした。

アナタみたいな美人なだけの女教師は職員室にいる男達の慰み者になればいいのよ、そして男達の頭の中でおもいきり強姦されなさい。・・。山川は世間話をしながら心の中で里咲に向かってそう訴え掛けた。

そして、世間話がちょうど尽きかけた頃だった。° 山川の手が過ぎて机の上に山積みになった書類の束にぶつかり、里咲の脚元の床に雪崩の如く落ちて散乱した。

「ヤダあ、どうしよう」

山川の大袈裟なまでの悲鳴が職員室に響き渡り、職員室にいる全員が山川の席の方に視線を向けた。
「吉川先生、悪いけど拾ってもらえるかしら？」
山川は目の前に立つ里咲に申し訳なさそうに頼んだ。
「はい・・・」
お局教師に頼まれた里咲は仕方なく頷くと、脚元の床に散乱する書類を拾うためにその場にしゃがみ込んだ。
すると次の瞬間、周りにいる男性教師達の間から「オオッ」というどよめきが起きたのだった。

■ 海老沢薫 B L O G

<http://kaoruebisawa.blog.fc2.com/>

・ ・ ・ 「羞恥」 「露出」 「辱め」 をテーマとした小説シリーズや、各種コンテンツ情報などを配信。

■ 海老沢薫 Web 連載小説

『 清楚な美人妻 彩 27 歳 絵画モデル編 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=9281>

『 清純派女優 結衣 24 歳 ー 国民のペットへと堕ちていくヒロイン ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18802>

『 清純派女優 結衣 24 歳 ー 女神の憂鬱 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=26675>

『 女教師 玲奈 25 歳 ー 女性教諭の前代未聞の不祥事 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=17186>

『 美人社長 里帆 26 歳 ー 若き女社長のプライドを砕く屈辱の契約 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18885>